

カ ケ ア ワ セ

5W × 1H × 3P

MEMOIRS 2009 – 2011



## ■ 5W×1H×3P（カケアワセ）プロジェクトとは？

名古屋工業大学 伊藤孝紀研究室（Ti/Di）と TYPE A/B、FLANNEL SOFA の1研究室と2企業による産学共同プロジェクト。

5W×1H×3P とは、2つの Professional（企業）と学生らの Personality（個性）により1つの商品が生み出されるプロジェクトを意味し、三者それぞれの5W×1Hの要素が目的に則して抽出され"カケアワセ"されていく Process（過程）を公開しながら2つのソファを生み出しました。



**FLANNEL SOFA**  
ソファメーカー

私たちの考える本当の意味での「デザイン」とは、思案から、ソファの製作の過程を経て、お客様の元へ、その後長く使用され続ける。そのようなロングライフなモノ作りこそが、デザインだと考えます。



**TYPE A/B**  
デザイン事務所

住宅設計からマンションのリノベーションなど住空間のデザインを手掛けている。  
また、市場分析からコンセプトを創造し、ロゴやネーミングなどデザインを活かしたブランド戦略を実践中。



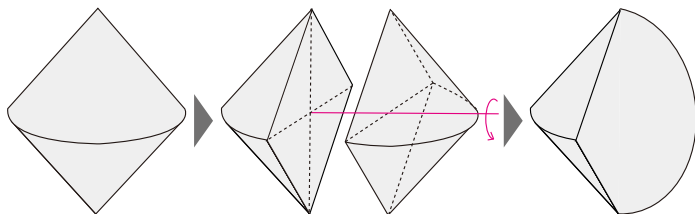
**名古屋工業大学  
伊藤孝紀研究室**  
大学研究室

家具からインテリア、建築等を一つの環境と捉えデザインの研究と実践を行っている。  
行政・企業・市民を巻き込んだ、インスレーションやマチづくりにも従事し、社会・世界に向け活発に活動中。

## 第1弾 RONDO

### 「子供といっしょに大人も楽しめるソファ」

転がる幾何学立体のつくりかた



幾何学立体が不思議な座り心地を生み出す。



コンペ

2009.03.01 - 04.03



学生の型にはまらない  
アイデアが飛び出す。

学生8名が「子供を軸とした家族生活の中心として、家族とともに成長するソファ」というテーマのもと、デザインを競い合った。審査員として原田さとみ氏も参加。

デザイン

2009.04.04 - 07.08



デザイナーや職人との議論から  
デザインが発展。

商品化に向けて3者が議論をし、デザインを検討。学生はアドバイスを受け、ソファのブラッシュアップを重ねた。デザインプロセスの展示会や公開ミーティングも行った。

製作

2009.07.09 - 10.05



職人の技術により、  
複雑な形状が生まれる。

木枠の構造、裁縫の方法などを試行錯誤しながら検討。職人は通常用いない特殊な材料や技術を駆使し複雑な形状のソファを形にしていた。

発表

2009.10.14 - 10.18



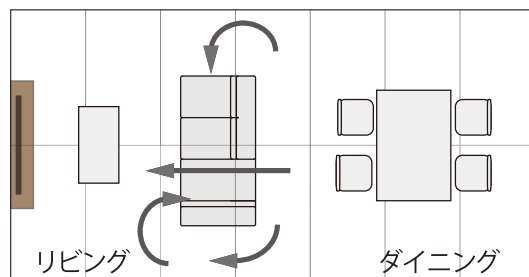
こどもから大人まで  
注目の展示会を開催。

NAGOYA DESIGN WEEK 2009 期間中に、ショールームとテレビ塔パークギャラリーにて展示会とお披露目パーティーを行った。100人を越える方々に座って頂いた。

## 第2弾 PIVO

### 「リビングとダイニングの空間を繋げるソファ」

PIVOの部屋でのレイアウト



背面からもソファに座ることが可能。



#### デザイン

2010.01.07 - 04.03



100 台以上のソファの調査から  
デザインを検討。

売れる商品を目指して、再出発。学生は 100 台以上のソファを調査した上で、新たなデザインを提案し、デザイナーと職人のアドバイスをを受け、デザイン検討を重ねた。

#### 製作

2010.04.04 - 10.10



ステッチや脚の形状に至るまで  
こだわりました。

木枠の構造、仕上げの方法などを検討。FLANNEL SOFA のソファ製作工場を打ち合わせ場所とし、製作工程を実際に見ながら、ディテールを詰めていった。

#### 発表

2009.10.14 - 10.18



ソファを中心に部屋を再現した  
展示会を開催。

NAGOYA DESIGN WEEK 2010 期間中に、FLANNEL SOFA ショールームにて展示会とお披露目パーティーを行った。来場者からの好評を得ることができた。

#### 販売

2010.10.18 -



売れるソファの商品化を  
達成しました。

FLANNEL SOFA ショールームで展示され、カタログにも正式に掲載され、目標であったソファの商品開発を実現。今も多くの方にご購入いただいている。

## ≡ 5W×1H×3P（カケアワセ）プロジェクトへの思い



フランネルソファ：和田 崇

学生さんのフレッシュなアイデア、タイプ・エービーさんのデザインコンセプトの分析と再構築による、コンセプトの視覚表現方法、そして私たち FLANNEL SOFA の具現力がまさに掛け合わさったカケアワセプロジェクトとなりました。



タイプ・エービー：高橋 里佳

デザイナーの多くは、コンセプトに重きを置いて「新しいもの」を作り出したいという気持ちが前に出てしまいがちですが、このプロジェクトを通して、改めて「売れるもの」をつくることの大切さを感じることができました。



伊藤孝紀研究室：富田 有一

「RONDO/ ロンド」と「PIVO/ ピヴォ」のデザインを通して、商品開発を成功させるためには「ヒット」を第一に考え、商品を製作する職人と消費者へデザインコンセプトを分かり易く伝えることが重要であると感じました。